

種名	ウ グ イ
	<u>Tribolodon hakonensis</u>
	
分類	コイ科コイ亜科ウグイ属
俗称	アカハラ(北海道)、イダ(九州)、アカハラ・オオガイ(東北)、イダ・サクライダ(♂)(北陸、関西、山陽、四国、九州)、ハヤ・クキ(関東)、イゴ・サクライゴ(♂)(山陰)、マルタ(海から遡上したもの)
形態的な特徴	繁殖期以外は体色が全体に銀白色で、この時期に他のウグイ属の種と区別するのは難しい。産卵期には婚姻色で雌雄ともに体側に3本の赤色縦条が入り、これに囲まれるところは黒帯となる。追星は体全体にできる。全長は30cmほどになる。
分布	ほぼ日本全土に分布するが、四国の瀬戸内側の一部や琉球列島には分布しない。
繁殖行動	産卵期は九州では2～3月、北海道では6～7月で北方ほど遅く、本州では桜の開花時期にほぼ一致する。産卵場は川の瀬の小礫底で、大雨の後の浮き石状態の時に行われ、産卵シーズン中、雨ごとに何度か行われる。
生息場所	淡水型と降海型とがあるが、淡水型は河川の上流から下流域まで生息し、同じ水域内に共存魚種が少ない場合は他種よりも優占する傾向がある。山間の湖沼などにも生息し、他の魚がすめないような強い酸性度の水域にも生息する。降海型は汽水域から内湾、外海の沿岸部まで生息する
食性	食性は雑食性で付着藻類や水生昆虫の他動物の死骸、魚卵、稚魚なども食べる。
生息環境への配慮事項	水深が浅い都市河川などでは見られないが、流れのある小川や水路、河川であれば普通に見られる種である。しかし、近年はオイカワ、カワムツの進入により川の上流部へ追いやられ、数が減少している地域もある。本種は遊泳力があるため、三面コンクリート張りで水が勢よく流れているような川でも遡上することはできる。しかし、このような水路は魚が休む場所も、エサが流れてきてたまる場所もなく、本種の産卵場所となるような河床も見られない。そのため一時的にすむことはあっても永続的に生息するとは考えにくい。したがって、本種を永続的に保護するためには、産卵場となるようなところを確保することと、普段生活する川に多様な流れを作ることが重要である。
その他	ウケクチウグイは準絶滅危惧(新潟県RDB) 絶滅危惧 B類(環境省RDB)
引用文献: http://www.maff.go.jp/nouson/mizu_midori/menu/main.html を改変	